

平成29年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	ラーニングアドバイザーを活用した学生主体の学修支援	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	全学教育機構	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	附属図書館	
実施責任者(所属)	勝木 明夫 (全学教育機構)	
取組の目標	1 年次生を対象とした数学及び化学分野の学修支援を、ラーニングアドバイザーを活用して学生主体で推進する。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	【目標達成のための活動】 1. 松本キャンパスの部局に学修支援体制について説明し、体制の構築に協力頂いた。特に、医学科及び教職支援センターより LA の推薦を受けて、体制が充実した。 2. 大学院生その他、学部学生をラーニングアドバイザー(LA)として雇用して実施した。 3. 4 月当初は週 4 回であったが、支援体制充実に向けた活動の結果、7 月からは月～土曜日まで週 6 回行うことができた。 4. 上記 LA に加え、期末試験に向けて臨時で学部 1 年生(同級生)の LA による支援を行った。 5. 学生(LA)や予算の確保等の学習支援体制を整備した。 【成果】 1. 中間試験やり直し(40 点未満)を行い、例えば、T1 のあるクラス(全体 63 名、やり直し 9 名)では、中間試験平均 33.4 点(全体平均 58.0 点)から期末試験平均 60.9 点(全体平均 77.2 点)であった。 2. 復習の振り返り支援を F1(機口、微積Ⅱ)対象に行い、LA 指導率は 30.2%であった。 3. 4 月当初の週 4 回から、7 月以降、月～土曜日までの週 6 回の体制に展開したため、相談件数は、前期(4-8 月)170 件から後期(9-3 月)206 件に増加した。	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた	(評価理由) 松本キャンパスの全部局に学修支援の取組説明を行い、継続した協力体制が整った。 (今後の展望) 復習等の振り返り支援に対する LA 指導率向上策を検討する。 ラーニングアドバイザーの継続的な養成策を検討する。